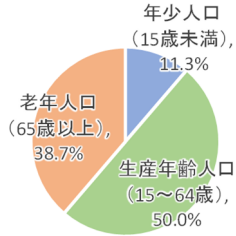


田 君 (たきみ)

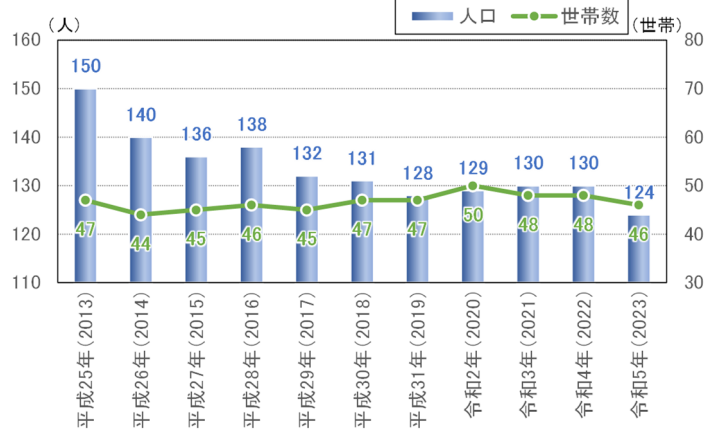
人口・世帯数等 (令和5年4月)

| | |
|-------|--------|
| 人 口 | 124 人 |
| 世 帯 数 | 46 世帯 |
| 高齢化率 | 38.7 % |

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立 地 集落は、岸田川支流の田君川沿いに家屋が密集し、東西を山に囲まれた谷間の低地に位置する。
地名由来 『和名類聚抄』の「田公郷」に由来する。これは、田君川の流れに関係するものとされ、「激水」の意で、雨のあと急に水の出る川の意とする（『ひょうごの地名』(吉田茂樹著)）。また、「秦公」が「タキミ」となったという、秦一族の渡来地であるという説もある（『浜坂町史』）。

歴史等 「たきみ」の名は、弘治3年（1557）の『但馬国にしかた日記』に「たきみ谷」とあり、「てんよう庵」という庵寺があったとされる。谷、三成、奥谷の集落からなり、近世は栃谷村に含まれた。近世の栃谷村は、豊臣政権下では太閤蔵入地（豊臣氏の直轄地）で、江戸時代には、慶長10年（1605）旗本宮城氏知行、正保元年（1645）幕府領、寛文8年（1668）豊岡藩領、享保12年（1727）からは幕府領となった。山元である栃谷村と新市・古市・七釜の3か村が争った田君谷山論（延享4年（1747）～弘化3年（1846））としても知られる。

集落内を流れる田君川には、5～8月にかけてバイカモ（梅花藻）が水面に咲き誇る。平成8年度から県の河川環境整備事業によりバイカモの生育環境の創出や観察の場としての河岸の整備などが進められた。田君地区でも「田君川バイカモ保存会」を発足させて保護活動を行っているが、近年の集中豪雨により群生範囲が小さくなっている。

これまで把握している文化財

文化財の件数 31 件 (うち指定等文化財 1 件)

| 大分類 | 中分類 | 小分類 | 把握件数 | | 指定等 |
|-------|------------|---------------|---------------------|----|-----|
| 有形文化財 | 建造物 | 建築物 | 2 | 3 | 0 |
| | | 石造物 | 1 | | 0 |
| | | 工作物・その他の構造物 | 0 | | 0 |
| | 美術工芸品 | 彫刻 | 1 | 4 | 7 |
| | | 絵画 | 0 | | 0 |
| | | 工芸品 | 2 | | 0 |
| | | 書跡・典籍 | 0 | | 0 |
| 無形文化財 | | 古文書・歴史資料・考古資料 | 1 | 0 | 0 |
| | | 音楽 | 0 | 0 | |
| | | 演劇 | 0 | 0 | |
| | | 工芸技術 | 0 | 0 | |
| | | その他の無形文化財 | 0 | 0 | |
| | | 信仰の場 | 2 | 0 | |
| | | 祭具 | 0 | 0 | |
| 民俗文化財 | 有形の民俗文化財 | 民具 | 0 | 2 | 0 |
| | | その他の有形の民俗文化財 | 0 | | 0 |
| | | 年中行事・民俗芸能 | 2 | | 4 |
| | 無形の民俗文化財 | 民俗技術 | 0 | 2 | 0 |
| | | 食文化 | 0 | | 0 |
| | | 民間説話・俗信 | 0 | | 0 |
| | | その他の無形の民俗文化財 | 0 | | 0 |
| 記念物 | 遺跡 | 散布地・集落跡・生産遺跡 | 4 | 17 | 0 |
| | | 古墳・その他の墓 | 12 | | 0 |
| | | 城館跡・寺社跡 | 1 | | 0 |
| | | 街道・古道等 | 0 | | 0 |
| | | 戦争遺跡 | 0 | | 0 |
| | | その他の遺跡 | 0 | | 0 |
| | | 山岳・高原・丘陵 | 0 | | 20 |
| | 海岸・海浜・島嶼 | 0 | 0 | | |
| | 河川・滝・渓谷・湖沼 | 0 | 0 | | |
| | 公園・庭園 | 0 | 0 | | |
| | その他の名勝地 | 0 | 0 | | |
| | 動物 | 0 | 3 | 0 | |
| | 植物 | 2 | | 0 | |
| | 地質鉱物 | 1 | | 0 | |
| | 文化的景観 | | 生活・生業・風土により形成された景観地 | 0 | 0 |
| | 伝統的建造物群 | | 宿場町・城下町・農漁村等 | 0 | 0 |



田君薬師堂



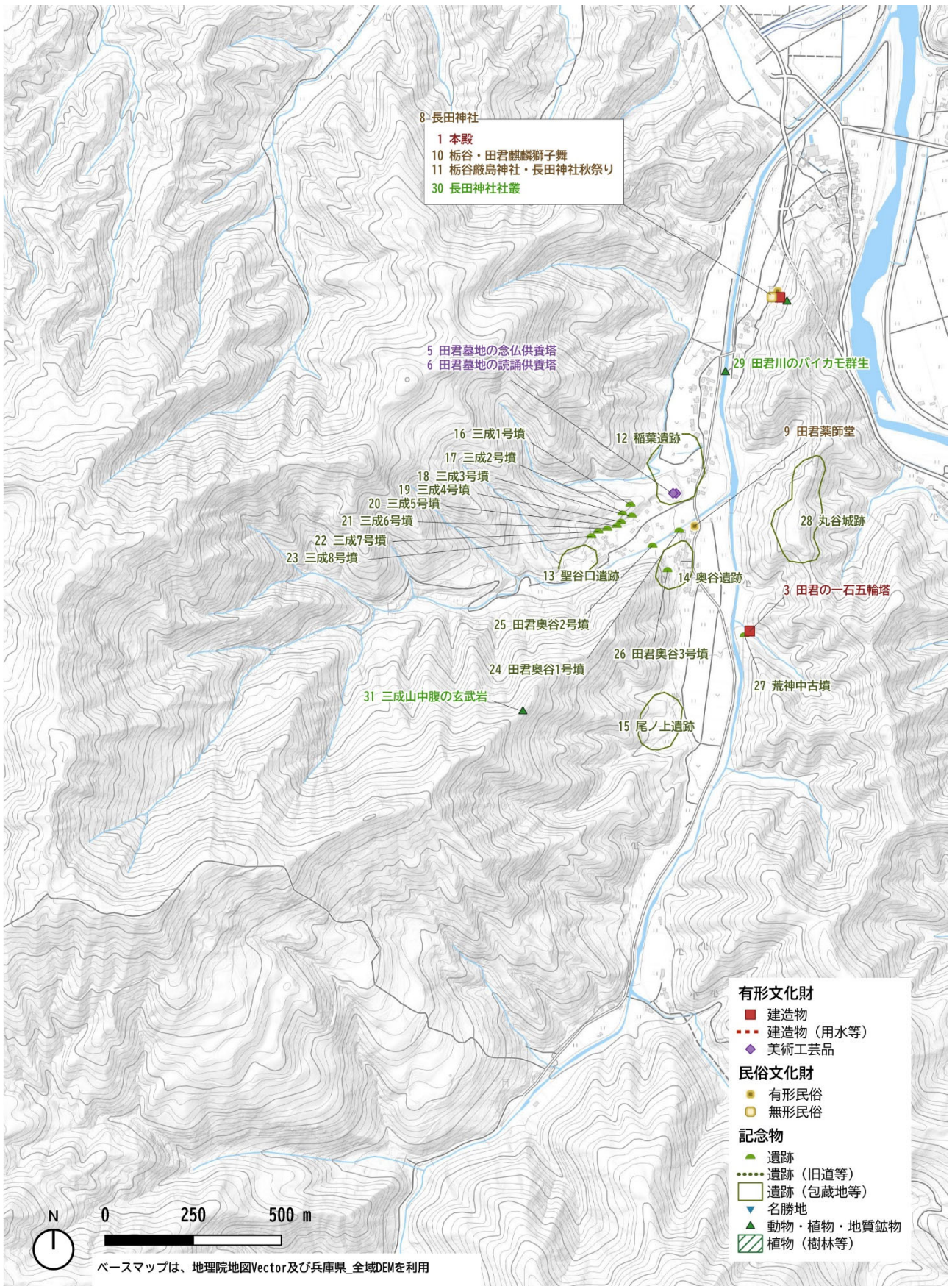
栃谷・田君麒麟獅子舞(長田神社)



田君川のバイカモ群生

※人口・世帯数は住民基本台帳（令和5年4月現在）による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

2-07 田君

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

| 分類 | 番号 | 名称 | 概要 |
|-----|----|----------|---|
| 建築物 | 1 | 長田神社本殿 | 身舎の板戸の両脇には龍、墓股には鶴（海鳥か）と亀が彫られ、向拝は欄間に欄間に龍、木鼻に獅子、唐破風懸魚（兔毛通）には鳳凰の彫刻などが見られる。鳳凰の嘴、龍の眼と龍が握る宝珠には朱色が鮮やかに残る。丹波柏原の彫物師中井権次正貞（六代目）の作である。 |
| | 2 | 西村家住宅 | 明治時代の建築。木造2階建、瓦葺。農家建物。 |
| 石造物 | 3 | 田君の一石五輪塔 | 田君川沿いの山林の中に周囲約5mの盛土があり、その上に高さ60cm余の小さな一石五輪塔が立つ。また、近くには小五輪塔が3つあり、墓石群の様相を示す。田君川東の尾根には中世の丸谷城があり、この城ゆかりの者の墓ではないかともいわれている。 |

■ 有形文化財／美術工芸品

| 分類 | 番号 | 名称 | 概要 |
|---------------|----|---------------------|---|
| 彫刻 | 4 | 栃谷奥谷の薬師如来像 | 恵信僧都（源信：942～1017）が作った仏像といわれる。昔、奥谷の上の字小谷口に阿弥陀堂があり、その続きに小さな堂を立てて安置したと伝わる。いつ頃か不明であるが、阿弥陀堂がなくなり、薬師堂だけとなったが、険しい山裾にあり、雪害もあったため、現在地に小さなお堂を立てて安置したとされる。 |
| 工芸品 | 5 | 田君墓地の念仏供養塔（建立年不明） | 安山岩の自然石型。高さ70cm。建立年は不明。主碑銘は「南無阿弥陀佛」。 |
| | 6 | 田君墓地の読誦供養塔（1875年再造） | 安山岩の自然石型。高さ205cm。明治8年（1875）9月再造と刻まれている。主碑銘は「光明真言一百万遍供養大塚」。密教で唱える真言の一つである「光明真言」を百万遍唱えて一切の罪業を払う行事の記念として建てられたものである。 |
| 古文書・歴史資料・考古資料 | 7 | 西村家文書 | 田君村文書。 |

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

| 分類 | 番号 | 名称 | 概要 |
|------|----|-------|---|
| 信仰の場 | 8 | 長田神社 | 祭神は素戔鳴尊、稲田姫尊、大國主尊、大山祇命、菅原道真。創立年月は不明。かつては田公社と称し、後に長田牛頭天王と称した。正徳年間（1711～1715）、ご神体が破損したので、修理のために京都に登り、神官に見てもらいと、このご神体は三つであるが、祭神は牛頭天王御一体と言われ、以後、牛頭天王と改称したと伝わる。明治6年（1873）3月（10月か）に長田神社と改称し、村社に列せられる。明治44年（1911）に若宮（徳原神社）、天神社、三宝荒神社を合祀した。 |
| | 9 | 田君薬師堂 | 奥谷入口に位置し、薬師如来像が祀られている。 |

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

| 分類 | 番号 | 名称 | 概要 |
|-----------|----|----------------|---|
| 年中行事・民俗芸能 | 10 | 栃谷・田君麒麟獅子舞 | 10月13日の長田神社・厳島神社例祭で奉納される。三段舞、片付けの舞（門付け）がある。栃谷田君麒麟獅子保存会により伝承されている。 国指定重要無形民俗文化財（「因幡・但馬の麒麟獅子舞」として） |
| | 11 | 栃谷厳島神社・長田神社秋祭り | 10月第2日曜日に行われる。榊の門付、獅子舞、子供みこしなど。 |

■ 記念物／遺跡

| 分類 | 番号 | 名称 | 概要 |
|-----------------------|-------|-----------------------------|---|
| 散布地・ 集落跡・ 生産遺跡等 | 12 | 稲葉遺跡 | 平安時代の散布地。須恵器片が多数散布。 |
| | 13 | 聖谷口遺跡 | 古墳時代の散布地。須恵器片数点が散布。 |
| | 14 | 奥谷遺跡 | 縄文時代の散布地。縄文土器片数点が散布。 |
| | 15 | 尾ノ上遺跡 | 古墳時代の散布地。土師器片が散布。1987年の浜坂町埋蔵文化財報告書では「尾ノ谷遺跡」とある。 |
| 古墳・ その他の墓 | 16 | 三成1号墳 | 古墳時代の古墳。一辺1.5m方形の横穴式石室。天井石が露出している。 |
| | 17 | 三成2号墳 | 古墳時代の古墳。1.5m×3mの横穴式石室が露出。 |
| | 18 | 三成3号墳 | 古墳時代の古墳。石室の一部が露出。 |
| | 19 | 三成4号墳 | 古墳時代の古墳。石室の一部が露出。 |
| | 20 | 三成5号墳 | 古墳時代の古墳。石室の一部が露出。 |
| | 21 | 三成6号墳 | 古墳時代の古墳。石室の一部が露出。 |
| | 22 | 三成7号墳 | 古墳時代の古墳。石室の一部が露出。 |
| | 23 | 三成8号墳 | 古墳時代の古墳。石室の一部が露出。 |
| | 24 | 田君奥谷1号墳 | 古墳時代の古墳。横穴式石室(2.4×3.6m)の一部が露出。 |
| | 25 | 田君奥谷2号墳 | 古墳時代の古墳。石室の一部が露出。 |
| | 26 | 田君奥谷3号墳 | 古墳時代の古墳。土取りのため横穴式石室の一部が露出。首飾りが出土。 |
| 27 | 荒神中古墳 | 径8mの墳丘の上に五輪塔がある。中世墓の可能性はある。 | |
| 城館跡・ 寺社跡 | 28 | 丸谷城跡 | 中世の城館跡。30m×40mの平坦面。 |

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

| 分類 | 番号 | 名称 | 概要 |
|------|----|------------|--|
| 植物 | 29 | 田君川のバイカモ群生 | かつて一面に咲き誇っていた田君川のバイカモであるが、川一面に葦が生え、絶滅の危機に瀕していた。平成8年(1996)からバイカモの復元に取り組み、平成12年(2000)には葦を取り除くとともに、河床を整備した。これをきっかけに、かつてのバイカモ群生地をよみがえらせようと、田君地区の住民でつくる田君川バイカモ保存会が発足して保護活動を開始した。兵庫県レッドリスト(植物)ではBランク(兵庫県内において絶滅の危険が増大しており、極力生育環境、自生地などの保全が必要な種。環境省レッドデータブックの絶滅危惧)に位置付けられている。 |
| | 30 | 長田神社社叢 | 標高10~30mに位置する。高木層はスダジイ(胸高直径60cm)、タブノキ、ウラジロガシなどの常緑広葉樹が優占し、ホオノキ、コシアブラ、カラスザンショウ、イヌシデなどの落葉広葉樹が混生する。亜高木層はツバキ(ヤブツバキ)が優占し、タブノキ、ソヨゴ、ウワミズザクラなどが見られる。低木層はアオキが優占し、ツバキ、ウラジロガシ、タブノキ、シロダモ、サカキなど多くの種類が混生している。社叢の南側の下部にある山裾は湿潤であり、主に暖地性のシダ植物の群落が多く見られる。特筆すべきものとしては、ヒロバスケが本殿右隣のタブノキの大木の株付近と、それに続く緩傾斜地一帯に点々と見られることである。 |
| 地質鉱物 | 31 | 三成山中腹の玄武岩 | 三成山一帯は八鹿累層諸寄火山岩溶岩・玄武岩質安山岩で、亀甲型の柱状節理が特徴である。 |